

	校名	大阪府立とりかい高等支援学校
	校長名	福井 浩平
開催日時	令和8年1月30日(金) 14:30~16:30 (6限に生徒活動動画視聴)	
開催場所	大阪府立とりかい高等支援学校 校長室	
出席者(委員)	瀧本 一夫、川橋 健太郎、森川 晶平、岩田 一成、堀江 美香、松原 里依	
出席者(学校)	福井 浩平、金田 裕介、折橋 清暢、水嶋 育美、島田 真理、 福岡 勇太、加藤 洋介、田中 恵、大井 雅晴、本村 さや香	
傍聴者	0名	
協議資料	① 次第 ② 学校運営協議会 委員名簿 ③ 学校運営協議会 事務局名簿 ④ 生徒保健委員会の取り組み (第65回大阪府立学校保健研究発表大会での発表スライド) ⑤ 11/15(土)学校祭来校者アンケート ⑥ 12月授業参観週間保護者アンケート ⑦ 令和7年度3年生(11期生)進路状況 ⑧ 令和7年度 学校教育自己診断 結果と分析、肯定度ランキング ⑨ 令和7年度 学校経営計画及び学校評価【年度末評価】 ⑩ 令和8年度 学校経営計画及び学校評価	

議題等(次第順)
(1) 生徒保健委員会の活動・発表(動画視聴)について (2) 11/15(土)学校祭来校者アンケートについて (3) 12月授業参観週間保護者アンケートについて (4) 令和7年度3年生(11期生)進路状況について (5) 令和7年度 学校教育自己診断 結果と分析について (6) 令和7年度 学校経営計画及び学校評価について (7) 令和8年度 学校経営計画及び学校評価について (8) その他、質疑応答
協議内容・承認事項等(意見の概要)
<p>(1) 生徒保健委員会の活動・発表(動画視聴)について</p> <p>協議会の前に、保健主事より生徒保健委員会の普段の活動についての説明をし、第65回大阪府立学校保健研究発表大会での発表動画を視聴した。以下は、それを受けての意見交換。</p> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しいやり方を理解してそれを習慣化することの大切さを感じた。障がい者雇用をしている立場からは、会社でできることもあれば、歯みがき、掃除、家事など家庭でできることもあるので、ぜひ学校でのこの取り組みを継続させてほしい。 ・習慣化の大切さを感じた。支援者側としては、仕事をしやすい環境は全て会社が提供してくれるわけではなく、ある程度は自分でも工夫して整えていかないといけない場面は出てくると感じている。何がどこにあって、取り出すのにどんな時間がかかって、清掃状況とかは仕事の効率にも関わるので大事なことだ。 ・当たり前前のことを社会に出る前に習慣化し、意識づけするというのは大事。個々が風紀的なことを守ら

ないと周りもどんどん悪く連鎖していく。委員会活動を通じて、みんなに発表することで、学校生活の中で「みんなでがんばろう」という目標を呼びかける生徒たちの姿勢が素晴らしいなと感じた。

- 発表が見れるのを楽しみしていた。習慣は大事だが、卒業後もキープしてはじめて、今後の生活に役立っていくのだと思う。学校で学んだ清掃や片付けの仕方などを家庭でもできるようにと自立活動の視点でも取り組まれているということだが、他の学校の生徒と関わる時にも、こういうことができているか聞いてみようと思う。
- 本人は、中学校まで発表にあまり自分から出ることがなかったが、とりかいに入学してから、学校祭に出てみたりとかして、舞台とか人前で話すっていう度胸がすごくついてきたのかなと、ちょっと嬉しく思っている。発表動画の中で、せっかくなお手本の方に出たので、学んだことを家でもやってほしいなどと言ってみようかなと思う。
- 大学生の卒論の発表では、聞いている人の方を見ずにパソコンを見ながらで、それに比べるとすごく堂々と発表していた。発表やスライドについては、スタートとゴールっていうのが分かりやすく表示されているといい。スタートは、現状どうだから私はこういう課題に気づいたということ。それを子どもが気づいてそれを何とかしようっていう、その考え方の流れが大事。ゴールは、それをした結果、どんないいことがあるのかということ。そういう流れが自分の中でつかめると、例えば家の机の上が汚いとなった時に、片付ければ勉強しやすくなるよねとか、気持ちがスッキリするよね、といろんなところに使っていく。そのスタートとゴールを意識して今後の発表をしていくとよいと思う。

(2) 11/15(土)学校祭来校者アンケートについて

【地域支援部長より説明】

ここ 2 年ほど、地域の中学生とその保護者の方に行事公開としてぜひ見に来てくださいと広報をしている。本校の保護者は約 180 名、卒業生は約 30 名、中学生とその保護者は、約 25 組で約 50 名、企業の方は約 8 名と、多くの来場者となった。アンケートは、今年度は紙アンケートに Google フォームの QR コードをつけて、どちらからでもアンケートをくださいとお渡しした。紙のアンケートでの回答はなく、すべて Google フォームの方で回答が返ってきた。

【委員】

- アンケートの中の、お気づきの点について、確かに、体育館の後ろの方が暗くて、反対に前が明るすぎて顔が反射してるような感じになって見えづらかった。音響も聞こえづらいところがあったが、みんなすごく楽しそうにしている良かったし、自分も一緒にゲームに参加させてもらった。
- お気づきの点が物理的なものばかりで、逆に考えると、もっといい環境で見たかったっていう意思の表れなのではないかと思うと、今回の学校祭はとていい取り組みだったのではないかと思う。

(3) 12月授業参観週間保護者アンケートについて

【教務主任より説明】

授業参観は年 3 回、4 月に土曜参観、7 月と 12 月に 1 週間の授業参観週間を設定している。今回は参加者数とアンケートが少なかったが、昨年度から大きく変更したところはない。アンケートも前回同様、Google フォームによるアンケートと、来校の保護者には紙も配付させていただいた。アンケート回答件数は少なかったが、日頃の連絡帳とかで普段の様子が伝わっているのかなと感じている。ちょっと今回少なかったのは気になる点ではあった。

【委員】

- 4月の土曜参観みたいに、この日と決めてもらえると仕事の休みが取りやすく、仕事の調整もしやすい。1 週間のうちのどこかでってなると、どこで調整できるかというところで逆に段取りが組みにくくて、結局仕事を抜けられなかった。体育祭の行事のようにピンポイントで日にちが前もって分かっている

る方が仕事の調整はしやすい。他のPTAの保護者からも似たような意見は出ていて、1週間だと行きにくいよねっていう話はあった。

- ・企業側からの視点でこの時期は授業参観に行きにくい（休みを取りにくい）かどうかというと、若干企業によって違うと思うが、年末や年度末以外だと調整して行きやすいのではないかと思う。
- ・就労支援センターからの視点だと、秋はイベントが多いので行きにくいかも。12月とかであればなんとか行けても、2月とかだと予算とか次年度のことを考えないといけない時期になってくるので行きにくい。
- ・（保護者の職場によって）一概には言えないと思うが、参考にさせていただければ。

（４）令和7年度3年生（11期生）進路状況について

【進路指導主事より説明】

卒業が近づいてきたが、ほぼ全員の進路先が決まってきた。30名中、24名が就職予定で、半分の12名が特例子会社に就職で例年よりも多い。他は、縁故就職で3名、福祉サービス利用が3名となっている。変わらず、仕事のマッチング、地域とのつながりは大事。就職者は就ポツ（障害者就業・生活支援センター：以下、就ポツと表記）登録をしていく。

【委員】

- ・特例子会社は、とりかいで今まで採用があったところか？

【進路指導主事】

- ・今までも採用いただいでいて、今年また改めて次の生徒をといる会社が多い。最近、東京から大阪に進出してきた会社もある。就職先の24社中では、初めて本校から就職する会社は6社ある。

【委員】

- ・就労選択支援事業を利用する動きはあるか？また、利用するとなるとどのタイミングでどういう場合に使うのか？

【進路指導主事】

- ・昨年10月から新しく始まった事業で、アセスメント実習に置き換わるものという認識。本校では、B型事業所の利用の生徒が今までこの10年で1人か2人なので、この事業の話が出ることは今はそんなにない。今年度途中から始まった事業なので、本校では教員向けの研修を3月に実施する予定はしている。では実際にはどういう運用があるかということ、一つは、いろんな可能性からアセスメントを取りたい場合。学校でも日頃、生徒のアセスメントをしたり、職場実習に行ったりはしているが、他の方から見てどうなのか見ていただき、一般就労するとしたらどういう力が足りていないとか、事業所に行くとしたらどういう事業所がいいのかとか、を見極めてもらうために活用していきたい。

もう一つは、地域とのつながり。この事業を使うとなると、一つ大きいのが、地域でのケース会議が必ず行われるということ。事業者、相談支援、就ポツ、ハローワーク、いろいろな機関が集まって、それが生徒にとっての地域とのつながりになる。保護者もすごく安心されると思うので、そういった良い面を生かしながら実施していく。アンテナは張っているんで、必要なタイミングでまた情報提供は保護者にしていきながらやっていく。

【委員】

- ・福祉サービスを選択するための事業ではないので、それが本来の使い方になってくるのかなと。地域によっては、この事業の利用者の幅が広くて、B型に行きたい人は受けないといけないっていうのもあったり、どんな働き方をしたらいいのか迷っている人も受けたりするし、受ける人がすごく幅広くてすぐに受けられなかったりもする。地域によっては事業所の数も少なかったりもするので、地域の現状に合わせないと、「今使いたい」となっても「使えません」とか、「もうちょっと待ってください」となる。こちらからもまた情報発信していけたらと思う。

・会社側としては、学校が3年間、生徒の課題にも向き合って支援し、おそらく私たちの会社にも実習に来ていただくときに、一番いい状態でお越しいただいたので、こちらとしてもスムーズに選考を進めていける体制を取れたと思う。進路状況の資料には、しっかりと生徒に寄り添って先生方が対応された結果が現れていると思う。

・調理補助の職種は、包丁が使えるとかのスキルは必要なのか？

【進路指導主事】

・そのあたりは前提で、やっぱりもちろん使えないと、というのはある。家で料理するのが好きとか、家事手伝いしているとかの生徒が、調理補助を希望するということがある。調理補助も幅が広く、飲食店や喫茶店になると、指示通りにメニューを理解して、自分でメモを取ってコーヒーを作るなど、また違う力を求められる。

(5) 令和7年度 学校教育自己診断 結果と分析について

【教頭より説明】

回答数と回答率については、生徒は95人中92名97%、保護者は95名中79人83%、教員は100%だった。(各項目に対する分析は、記載内容を説明した。)

【委員】

・いじめ対応の項目にある、アンケートをとってどうだったのか？

【教頭】

・年3回、Google フォームで生徒向けのアンケートを実施しており、特に大きな問題はなかった。ただ、友人同士の中でちょっときつい言葉が気になるとか、そういったあたりが出てくるところはあるが、SSW（スクールソーシャルワーカー）やSCの来校時に面談をしたり、お昼休みにクラス担任ではない教員がランチタイム相談室を開いたり、生徒たちの話を聞くという場もあり、今のところ大きなものにはなっていないというところである。

【委員】

・生徒たちのスマホのラインのやりとりの誤表現とか、そういったところもないか？

【教頭】

・SNSについては、もちろんいろいろあるが、「先生困ってるねん」と言ってくれるケースもあるので、わりと初期対応できている。

【委員】

・生徒の「先生はみんなの意見を聞いてくれている」は肯定率が少し上がっているが、教員の「教員は生徒の意見をよく聞いている」では肯定率が少し下がっていているという、このズレはなんでそうになっているのかがちょっと気になった。

【教頭】

・私の推測にはなるが、生徒は教員と相談できる体制があって近い距離にあるっていうのもあり、教員の方がそれが当たり前前に感じている部分もあるのかもしれないと思う。

【委員】

・危機管理の項目で、生徒の「避難訓練の学習はわかりやすい」の肯定率がちょっと下がったのは新しいカリキュラムに変わったからか？いつもと違うことをしたからか？

【教頭】

・今年度は、放送で「避難しましょう」ということだけではなく、実際に近い形で何か突発的なことを付け加えている。今回は、教員の怪我人が出た想定で、それを対応してからの避難となり、その分、今までよりは待ち時間が長くなっているのので、「なんで長いんやろう」というような見通しが持てなかった部分も、もしかしたらあるかもしれない。

【委員】

- その想定っていうのは、生徒には先に説明をした上でスタートしてもらえたら。いろんな想定があって訓練するのはすごくいいと思うが、情報を前もって生徒にも共有しておけば、「あ、そうか、じゃあ先生が怪我した場合はこうやって動くんだな」とかのイメージがもう少し持ちやすいのかなと思う。放送が止まるとこういうこともありえるんだよ、みたいなのを先情報として言ってあげたらもうちょっと肯定率が上がるのかなと思う。後で「あ、そうやったん」、「え、じゃあ結局どれが正解なん」とか困るかなとも思った。
- 私の経験では、4月に新転任の方が来られて、自己紹介ぐらいで終わっていた印象があるので、もう少しみんなが知り合いになれるような工夫みたいながあると、肯定率がもうちょっと上がるんじゃないかなと思う。同じ分掌や同じ学年だったりすると親しくなれても、それが違ってくると、ちょっと疎遠になったりすることがあるので、何か工夫があると、教員全体で初任者を育成するとか、お互いに相談できるとか、肯定率は高くなってきていますが、研修成果を発表するといったことがやりやすくなるんじゃないかなと思う。
- 生徒の「学校に行くのが楽しい」の肯定率が86%で高いが、否定率12%の生徒が少し楽しくないというふうに見えるので、あと一歩何なのかというのは、また学校で考えていくとよいと思う。

(6) 令和7年度 学校経営計画及び学校評価について

【校長】

今年度については、概ね計画通りに進めることができたという評価である。

- 中期的目標の中の、働き続ける力の項目では、卒業後一年間の定着率が100%で、次の一年間、昨年度に27人就職し、1人は会社の都合で一旦離職するも再就職し、26人はそのままの企業で続けている。
- 経験年数の少ない教員を全体で育成するという項目では、目標70%が75.6%だった。令和4年度54.8%、令和5年度60%、令和6年度58.5%だったのが今年度75.6%で、目標を十分上回っている。
- 地域との連携の項目では、目標90%以上だったが、82.9%だった。今年もたくさんいろんなところで活動し、活動の評価もいただいているのだが、また分析をしていきたいので、委員のみなさんで何か思い当たるところがあれば、ぜひ教えていただきたい。
- 働き方改革の項目では、ストレスチェックの数字が86だった。100が普通、110は少しストレス高い、120になると、何かもうすでに起こっている状況、といった評価指標である。目標90で、今回86なので、全体的なストレスは少ないかなと思う。
- 学校運営協議会からの意見の項目は、たくさんご意見をいただいた中でも、特にこの学校経営計画に関連するものを載せている。
- 他に、今はまだ年度途中のため、アンケート実施中や集約中のものもある。

【委員】

- 学校祭について、中学生とその保護者にどうお知らせをしたのか？

【地域支援部長】

- オープンスクールや学校説明会、摂津市芸能文化祭の場でお知らせしたり、学校ホームページに見学スケジュールを載せたりしてお知らせした。時期が来たら二次元コードから申し込めるようにしていた。

【委員】

- 進路関係の連携について、例えば市町村によって動きが違ったりして、繋ぎにくい機関はあるのか？

【進路指導主事】

- 難しいとは思っている。地域での支援が必要な家庭が増えてきており、支援の方法も多様になってきて

いる中で、どう繋いでいったらいいのか SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）にも相談しながら思案しているところ。自分が窓口になって学年などに繋いでいっている状況である。担任や授業では生徒の状況を把握して、情報共有している。学校から支援機関に繋ぐのに、敷居が高いというのはない。

【委員】

- 例えばマラソン大会で、去年の記録タイムは 10 分で、今年は 10 分 3 秒だったという場合、私たちは、同じマラソン大会に参加してるんだけど、「ちょっと今年あかんかったよね」という評価もする。学校の先生って、「去年と同じだった」と納得しないことがある。「同じことをやってても」という風に考えてしまうと、同じことをやってても、たまたま去年の盛り上がり良かったら、「今年はイマイチやったな」とみたいな判断があるのかなと感じる。
- いつもやってることを評価していいものなんだろうと思う先生もいるのではないかと。すごく評価に値することをしても、「それって毎回やってること」、「それって評価していいことなん？」みたいなことを思う先生もいると思う。
- 喫茶の地域開放について、去年の協議会で、こんな感じでしますと聞いた記憶があるが、これは実施したのか？

【教頭】

- 地域の方にとところまではいかなかったのだが、保護者向けにオープンはし、保護者案内まではした。

★R7年度学校経営計画及び学校評価について、承認された。

(7) 令和8年度 学校経営計画及び学校評価について

【校長】

今年度の評価を受けての令和 8 年度の計画だが、今年度に計画したことは概ね順調に進んだが、大きく目標は変えていない。毎年コロコロ変えるものでもない。ただ、こういうところを少し工夫していこうとか、キャッチコピーをもう少し分かりやすいようにしようとか、目標内容を深めていきたいという点で変えたところはある。

- 目指す学校像では、「AI の時代、今こそ発信『とりかひの人間力』！」というキャッチコピーをつけた。AI に相談したら何でも答えてくれるような、そんな時代にはなっているが、AI の時代にこそ発信したい人間力がある。生徒たちに日々関わっていて、この生徒たちの良さってすごく良いと思っている。私個人的にはこの生徒たちが世の中を変えていってくれるのではないかとと思っている。そういった人間力をより発信していけばいいなと思う。社会に貢献し、社会を変えていける力に期待したいということを含めた。
- 中期的目標の中の、教育支援計画と移行支援計画を改善活用するという項目は、新しいツールが導入されるため、載せた。教育支援計画と移行支援計画自体は、リニューアルという形だが、このツールを活用することで 移行支援や就労支援により役立てていくということを進めていきたい。
- 新しい形での卒業生による進路学習の実施の項目は、卒業した後、会社で昇格したり、資格を取ったりと、ステップアップしている生徒もいて、現役生が知ると、自分たちもチャレンジできるんやって、世界観が広がっていくところがあるのではないかと思ひ、設定した。
- ケース会議の実施の項目では、これはこれまでも必要に応じてしているのだが、より意識して計画的にしようということで設定した。
- 「いらっしやいませ、とりかひ食み青果店」の項目は、地域に発信していくということで、例えば、正門の前だったりで何か販売などすることで、もう少し地域の人との関係を深めていけないかなというところで設定している。
- 避難訓練に合わせた防災学習の実施の項目は、もうすでに今年度から始めている部分もあるのだが、避難訓練に合わせて、例えばビデオを見たりしながら防災学習を避難訓練のタイミングですするというの

は、生徒も分かりやすいので、これを経営計画に明示してより進めていきたい。

- ・「英語で話そう」の項目は、大阪府の姉妹校交流事業で、全ての府立高校、高等支援学校、視覚支援学校、聴覚支援学校は、海外の学校と姉妹校を提携して、英語でコミュニケーションをとって、英語力を高めようという事業。本校でも、相手校を探しているところに、たまたま韓国の方から交流しようという話があり、今年度の10月31日に本校を訪問して下さったことがあった。その時に、このような大阪府の事業があって、交流先を探してるという話をしていたら、後日、向こうの方から連絡をいただいて、英語での交流をぜひやりましょうと言って下さった。韓国の支援学校と交流していくことになったので、新規で経営計画に入れている。予定では、来年度はその韓国の方々から修学旅行で日本に来るのでその時に本校で交流することになった。本校は希望する生徒を募って韓国に行くのは再来年度の令和9年度になる。10月に韓国の生徒たちが来てくれた時は、言葉の壁など全然ないような感じで、身振り手振り、表情でコミュニケーションをとっていて、素晴らしい交流だった。
- ・働き方改革の、年間の時間外在校等時間が720時間を超える教職員をゼロにするという項目は、対象者がいようがいまいが、大阪府から経営計画に載せるよう指示があって載せている項目である。
- ・他、キャッチコピーを少しずつ文言をリニューアルしながら、目標内容をよりもう一歩さらに深めていく計画となっている。

【委員】

- ・T-NET、OFIXが何なのか（ ）書きをしておく、知らない人も見て分かりやすいと思う。

【教頭】

- ・T-NETは大阪府の外国人講師の授業派遣の事業名で、OFIXは団体名である。

【校長】

- ・英語学習ツールというのは、前回の協議会で委員のみなさんに体験して頂いた、BASE in OSAKAのことである。

【委員】

- ・新しい形での卒業生による進路学習について、昇格した人や資格を取った人に来てもらって話を聞くというのはいいと思った。会社側の雇用者の能力開発の向上という視点と、支援者側の雇用者のスキルアップを応援していこうという視点と、同じ方向を見ているところがいい。あと、先生や支援者から話すのではなくて、実際に昇格した人、実際に頑張った人から話してもらおうというのが、話す側の本人にとっても、とてもエンパワメントされるだろうし、よりリアルな話になっていいと思う。

★R8年度学校経営計画及び学校評価について、承認された。

(8) その他、質疑応答

- ・(情報提供) 学校近くの地域の公園で、年2回、社会福祉協議会が開く「鳥の市」がある。お店が出て、自分たちで育てた鳥飼ナスや黒豆、摂津市のwe米の販売がされている。地域の催しなので、参加されてみてはどうか。
- ・(情報提供) 就ボツの周年記念事業で、安心して働いてもらうイメージを持ってもらえるような、市民対象の啓発セミナーを考え中である。またご協力いただけたらと思う。